



国民スポーツ大会で快挙

赤嶺勝永さん

10月に佐賀県で行われた国民スポーツ大会で字比嘉出身の赤嶺勝永さん(那覇西高校3年)がやり投げ競技に出場し、自己新記録の67メートル77で優勝を果たしました。

勝永さんは投てき種目で全国入賞を目指すため、球美中学校を卒業後は那覇西高校へ進学。やり投げの県高校記録保持者である叔父の赤嶺永哲さんから指導を受け、日々トレーニングに励んでいます。叔父の記録68m62を超えることが目標。

FC琉球選手らが直接指導

久米島でサッカークリニック開催

県出身のJリーガーによるサッカークリニックが11月30日(土)にふれあい公園で開催されました。久米島SCと球美FCから総勢38名の小学生が参加し、プロ選手から直接指導を受ける貴重な機会となりました。FC琉球の津覇実樹選手(うるま市)幸喜祐心選手(宜野湾市)特別参加の増谷幸祐選手、そして上原慎也さん(西原町)が技術指導やゲーム形式の練習を通じて、サッカーの楽しさやチームワークの大切さを伝えました。子どもたちは、プロ選手との交流を通じて、さらなる成長を目指す意欲を高めました。



三島郷友会総会開催

久米島紬の恩人の顕彰碑建立等テーマに

11月10日(日)那覇市のパシフィックホテル沖縄に本島在住三島(西銘、上江洲、久間地)郷友会員約50人が集い5年振りの総会等が開催され親睦を深めた。テーマは西銘との縁が深い久米島紬。西銘出身で久米島博物館開設に尽力し初代館長を勤めた故上江洲均氏の遺言「1600年代前半に久米島紬をブランド化に尽力した恩人4人(坂元宗味、友寄景友、上江洲家三世智隆、四世智圃)の「顕彰碑建立」の具現化や「久米島紬職人から人間国宝の誕生を」のアピールを行った。

アピールに関しては、2019年に年間を通して沖縄タイムスで「久米島紬の四季」を連載した堀川幸太郎記者にご講話で担っていただき来場者と共有した。堀川記者は、取材の経緯や紬の魅力を語り、島の人たちが伝統を継承する重要性を訴えた。

講演には25年に「久米島紬重要無形文化財国指定20周年」を迎える久米島紬事業協同組合から松元徹理事長ほか職人4人や西銘の大城秀文区長が出席し講話に聞き入った。松元理事長から顕彰碑建立を前向きに検討したい旨あり、役員改選で選出された内

間仁春新会長からは堀川記者の称賛と「久米島紬の現状や、これからの販路拡大」について話され協力を呼び掛けた。

(在沖三島郷友会 事務局長 吉濱秀彦)

